
母と娘

キャメルクラッチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

母と娘

【Nコード】

N4284Z

【作者名】

キヤメルクラッチ

【あらすじ】

これは、アリシア・テストロッサが助かり大人になった視点での回顧録。

「ねえ、アリシアママ」

娘のプレシアが顔を見上げ私の膝元から不思議そうに尋ねて来る。きつと今話した昔話に興味を惹かれる個所があったのかもしれない。その円らかな瞳はキラキラと輝き好奇の視線を宿しているから。

「どうしかしたの、プレシア？」

だから私は思う。嘗て何十年前も前、自分が少女だった頃に体験した不思議な経験。一人の男性と交わした約束の事じゃないかと。未だ果たされない、けれど私にとって忘れる事の出来ない約束。

「うん。ママは最後にその男の人と逢う事が出来たの？」

ああ、やっぱり。

彼は言った、一緒に遊園地に連れて行ってくれと。私とリニスとプレシアママも家族一緒に、一度も行った事のないユートピアへ。なら、その願いは叶ったのか気になるのも当然。

「残念だけど、その約束はまだ叶っていないの」

首を振って答えを出すとプレシアは凄く残念な顔で、今にも文句が飛び出そうな感じに頬を膨らます。それこそ、ウソツキな人だ！と言わんばかりに。

だけど私には解る。彼はそんな不義理な人ではないと。

当時ヒュードラ事件と呼ばれた事故の暴走、そして炎の壁の中から私とリニスを抱え救ってくれた彼は、態度こそ粗忽だったけど心

根はもつと暖かい物が感じられたもの。

「だけど……もしかして、プレシアがもう少し大きくなった時、その時には迎えに来てくれるかもしれないわ」

「どうして?」

窘めるようにプレシアの頭を撫でた後、私は確信にも近い気持ちで彼の出現を口にする、プレシアは訝しそうに首を傾げた。

「ママがあの人と初めて逢った時は5歳くらいだったわ。だから、プレシアが同じ歳になるのを待っているんじゃないかなって気がするの」

そう、当時の私は5歳、だけど今のプレシアはまだ4歳。変に口マンティストな憧れかもしれないけど、彼は……ひよっとしてそれを待っているんじゃないかって気がしてならない。

プレシアがあ頃の私と同じ年齢になった時こそ、彼は迎えに来てくれるんじゃないかって。

「じゃあ、私がママと一緒に年齢になったら、その人と逢えるの!」

私がつぼど懐かしそうに語ったのが気になったのか、予想に反してプレシアの反応が嬉々としている。ギョツと胸を抱きしめてくると嘘じゃないよね?という瞳で訴えかけてくるほどに。

そんな愛娘の反応が愛おしくて、また私も彼と逢える夢を忘れられなくて、ギョツとプレシアを抱きしめ返すとニッコリ微笑んでから相槌を打った。

「ええ、きっと。彼は、ゼロはそういう人よ」

(後書き)

先ずアリシアが助かる可能性があっても良いのでは？という動機から執筆しました。また、娘の名前に母親の名前を付けるのも密かな理想だったり。そしてこの作品では、ヒュードラの暴走事故をゼロに救われ生き延びた結末という事になっています。

ちなみにゼロというのはタイムウォーカー零という作品の主人公で本名は刹那零といます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4284z/>

母と娘

2011年12月14日21時49分発行